

令和6年度第1回 国道(国管理)の維持管理等に関する検討会

議 事 概 要

1. 日 時

令和6年6月27日(木) ※書面持ち回り開催

2. 検討委員

那須清吾座長、小浦久子委員、関本義秀委員、全邦釘委員、堤盛人委員、二村真理子委員、山口栄輝委員

3. 議 題

- (1) 検討会の経緯・目的
- (2) ICT・AI等の新技術の維持管理への活用状況
- (3) 国が管理する一般国道及び高速自動車国道の維持管理基準(案)の改訂
- (4) 今後の進め方について

4. 議事概要

(議題(1)～(4))について事務局より説明を行い、委員より下記のとおりご意見を頂いた。

- ・ 維持管理作業は、異常を認知したうえで、対応を判断・決定する流れで行われている。現状、ICT・AI では判断・決定はできないため、それを考慮した維持管理基準とすることが必要。
- ・ ICT・AI 等の新技術の活用が積極的に行われるような維持管理基準の記載としてほしい。
- ・ AI を使って現状を把握するだけでなく、マネジメントしていくことが重要。そのために必要となるデータが何であるのかを考えてデータの蓄積を行っていくことが重要。
- ・ BIM/CIM データを維持管理に活用していく取り組みも必要。
- ・ パトロール日誌を庁舎外から報告できるような取り組みは、リモートワークの観点でも有用である。
- ・ 新技術の公募・評価において、精度のみを求めすぎると新たな技術が生まれにくいので、その点も踏まえた取り組みを進めてほしい。
- ・ 道路をネットワークで考えたときには、国管理道路以外の維持管理の高度化、効率的も重要。そのためには、国の取組を自治体にも波及させるような仕組みも必要ではないか。(たとえば、公共施設の維持管理にお

- いて、GIS などに情報を載せて共有する仕組みのオープン利用など)
- ・ 維持管理データの活用を進めるためには、さらなる生データのオープン化が重要。それにより、民間サイドでの幅広い活用が期待できる。